

# 第8回伊達市総合教育会議 会 議 録

## 1 日 時

開 会 令和2年2月13日(木) 15時30分  
閉 会 令和2年2月13日(木) 16時20分

## 2 場 所

市役所本庁舎 2階会議室A・B

## 3 出席者氏名

伊達市長	菊 谷 秀 吉
伊達市教育委員会教育長	影 山 吉 則
委 員	早 瀬 芳 宏
委 員	菊 地 裕 子
委 員	岩 本 秀 一
北海道伊達高等学校長 (オブザーバー)	柴 田 亨

## 4 欠席した教育委員の氏名

委 員 平 田 賢 弘

## 5 会議に出席した職員の職氏名

市長部局	
企画財政部長	大 矢 悟
企画課長	高 田 真 次
企画調整係長	菊 地 真 由
教育委員会	
教育部長	金 子 達 也
教育部参与	櫻 井 貴 志
学校教育課長	安 藤 隆
生涯学習課長	山 根 一 志
図書館長	竹 迫 知 美
だて歴史文化ミュージアム館長	櫛 田 太 郎
指導室参事	林 毅 年
指導室主査	吉 田 寛 和
学校教育課企画総務係長	渡 邊 純 一

## 開 会 （15時30分）

### ◎高田企画課長

本日は、お忙しいところお集りいただき誠にありがとうございます。ただいまから、第8回伊達市総合教育会議を始めさせていただきます。本会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第1項に基づき協議するものです。それでは、これより先の進行は菊谷市長よりお願いいたします。

### ◎菊谷市長

それでは、さっそく議事を進めさせていただきます。

本日の会議に付す事件は、協議第1号から報告第3号までの4案件につきまして、皆さまからさまざまなご意見を賜りたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、協議第1号「伊達市立学校適正配置について」学校教育課長より説明いたします。

### ◎安藤学校教育課長

それでは、協議第1号「伊達市立学校適正配置について」ご説明いたします。

始めに、統合にかかるこれまでの経緯等のうち（1）適正規模の推進についてですが、これまでは平成19年11月に策定した「伊達市立小・中学校適正基本方針」に基づき、統廃合を進めてきました。

しかし、教育を取り巻く環境も複雑化、多様化しており、また、令和2年度から新学習指導要領がスタートすることもあり、今後の学校適正規模の考え方については、四角の枠で一部抜粋し記載しておりますが、第2次伊達市教育振興基本計画の中に、基本的な考え方を示して取り組んでいくこととしたところであります。

次に、（2）伊達市立学校の児童数の推移ですが、別紙1の資料をご覧ください。

伊達市内小学校の資料になりますが、1学年2学級に満たない有珠小学校の児童数は、令和元年度と比べ令和7年度には、約半分まで減少するとともに、複式学級が恒常化している状況であります。

また、長和小学校と稀府小学校においては、これまでは何とか全学年が単式学級で推移してきましたが、令和2年度からは、一部複式学級になる状況であります。

次に、資料戻りまして、（3）統廃合にかかる経過等についてですが、有珠、長和、稀府小学校それぞれ記載のとおり保護者との意見交換会や地域住民等への説明会を実施し、稀府小学校においては、令和4年4月1日に東小学校との統合が決定したところであります。

最後に、今後のスケジュールですが、あくまで予定であります。有珠小学校は、令和4年4月1日、長和小学校は、令和6年4月1日に、伊達西小学校との統合に向け、それぞれ保護者、地域意見交換会等を実施していく予定です。

説明は以上となります。

### ◎菊谷市長

ただいま説明がありましたが、ご質問、ご意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

### ◎菊谷市長

それでは、協議第1号につきましては、原案のとおり了承することとしてよろしいでしょうか。

〔異議なし〕

## ◎菊谷市長

続きまして、報告第1号については学校教育課長、報告第2号及び報告第3号について指導室参事から一括して報告願います。

## ◎安藤学校教育課長

それでは、報告第1号「新設校の進捗状況について」であります。本日は、令和3年4月に伊達高校の校舎を使用して設置される、1学年6学級の普通科単位制高校における準備委員会の委員長であり、伊達高校の校長である柴田校長にオブザーバーとしてご参加いただいておりますので、現在の進捗状況についてご報告をいただきたいと思います。

柴田校長、よろしくお願いたします。

## ◎柴田校長

新設校の進捗状況について、配布資料に沿ってご説明させていただきますが、資料に記載のとおり、現段階の内容であり検討中のものも含まれていることをご承知おきください。また、内容につきましては北海道教育委員会に報告しており、細かな行事や学校で設定する教科科目については、現在4月中までということで検討を重ねております。

それでは、1番目、校訓・スローガンについてですが、校訓につきましては格致日新という新設校の校訓としております。意味合いとしましては、日新という言葉は伊達高校の校訓の日々に新たなり、それから緑丘高校の校歌にもあります日に新たなり、格致という言葉は探究という学びを表した言葉であります。スローガンにつきましては、自らの道を拓かんということで、先を見通せない時代において正解がない前例のない問いに向かって挑戦をしていってほしいという思いを強く表した表現にしております。

スクールカラーの紺藍については、強く染めると伊達高校のスクールカラーである鉄紺に、浅く染めると緑丘の緑が強く出る色であり、両校のイメージをとって、このようなスクールカラーにしております。

3番目の学校教育目標については、「情熱にあふれ たくましく しなやかに生きる人を育む」としており、資料に記載の情熱、たくましさ、しなやかさという3つの言葉をキーワードとしております。

次に、育成を目指す資質、能力ということで、生徒達にどのような力を身に付けさせるかですが、(1)主体的に学び、意欲的に新たな学びに取り組む力、(2)多様性を尊重し、互いのよさを認めて協働する力、(3)地域社会に貢献し、持続可能な未来を創造する力となります。端的に言いますと、(1)が知性の力であり、勉強して良しとするのではなく、そこからまた新しい学びに取り組もうとする意欲を含めた学びの力というところを新しい学校に求めているところでもあります。(2)は感性の力、多様性を尊重するという伊達市の歴史でもあります亘理伊達藩やアイヌ文化、様々な北海道の開拓における多様性を尊重しながらお互いの良さを認めて、一緒に協働するという力を身に付けてほしいということがあります。(3)社会性の力、この地域社会に貢献して、そして持続可能な未来を創造する力を身に付けさせたいと考えております。その下に7つの力がありますが、こちらにつきましては、上の(1)～(3)を実際の日常の活動でどういうところに意識して身に付けさせるかという具体の力という風に考えていただければと思います。主に大学で使う言葉になりますが、ジェネリック・スキルという言い方をして、傾聴力から創造力までの7つの力を身に付けさせたいと考えております。

最後5番目になりますが、特色ある教育活動です。1点目は探究的な学習活動の充実を図る、校訓のひとつにもなっております探究的な学び、アクティブラーニングというよう

な学びの実現を図る問題解決的な能力を育成しようということで、3年間を系統的にそれから教科科目を横断的に学ぶというようなことを現在計画しております。それから、その実現のために、1単位時間を高校は通常授業を50分としておりますが、55分とし、この5分を活かして先程申したアクティブ・ラーニングや問題解決、探究的な学習に結び付けたいと考えております。単純に1単位時間を5分長くしたので、5分間だけ探究的な学習の時間をやりましょうというわけではなく、様々な使い道があると思っておりますので、1年間なり3年間見た時にこの5分間が、たかだか5分でありますけれども、されど5分というように呼ばれるような探究的な学びに結び付けたいという計画をしております。また、他のメリットとしては、50分を1単位授業としているので5分プラスに本校の生徒はなっていくます。1日6時間授業を行いますので、1日30分を週5日で150分、3単位分通常の学校よりも多く学ぶことができる学校となります。この3単位を様々な行事や進学、就職等で専門的な科目をより多く学びたい場合は、これを単位に振り分けて勉強をより多くできるようなことも計画しております。この55分授業について、道内では札幌東などが行っておりますが、管内では初めてとなります。

2点目、グローバル教育の充実を図るにつきましては、伊達市からも様々なところで出ておりますだて学に通じるころという風に考え設けております。海外見学旅行や海外研修を目玉として本校の中にグローバルな物事の見方、そういう資質、能力を身に付けさせたいと考えております。ただ、海外見学旅行、海外研修について国内より費用があがるというところで、現在伊達市ではカナダで研修が行われているということで、そういったものとコラボしながらできないだろうかということも考えており、費用も含めて今後市の方と検討させていただけないかと考えております。なお、海外見学旅行について、行先は検討中であります。グローバルな視点をもつての地元、地域貢献の考え方ではありますが、これは小中学校でやってるだて学をさらに発展させて高校バージョンのだて学に仕上げていきたいと考えております。主に総合的な探究の時間において行おうということで考えております。

最後3点目になりますが、自己実現を目指したキャリア教育の充実を図る、これが地元の特に保護者の方からは、新設校に行ったときに子どもたちが本当に将来なりたいものになれるのだろうかという声を多く聞いています。その実現のためということで、単位制のメリットを存分に生かして、一人ひとりにあったキャリア教育を実現させていきたいという強い思いで記載しております。説明の中に聞きなれないコンソーシアムという言葉がありますが、共同体ということで伊達の新設校のために様々な企業や教育機関が連携を組んでできることは取り入れたい、その代わり本校の生徒が何らかの形でその事に報いるような活動をしていきたい、お互いにメリットがある、そして将来につながるような教育を充実させていきたいというものです。また、選抜制の高い大学進学を目指した進学クラスを設置することで決めております。クラス数ははっきり決めておりませんが、規模的には1クラスということで現在検討をしております。このことについては、さらにその1クラスを授業の中だけではなく、教育課程外でもサポートするような何らかのシステムが校外でもできないか現在模索しております。

説明は以上となります。

#### ◎林指導室参事

報告第2号、報告第3号を一括して報告させていただきます。

まず、報告第2号「令和元年度伊達市学力テストの結果について」でございます。

資料につきましては、次のページをご覧ください。昨年12月に実施しました伊達市学力テストについて結果が届きましたので、概要を報告させていただきます。

結果全体としては、最初のページに記載されておりますとおり、全国の実施校の平均、標準スコアと比較した場合、小学校については国語、算数、理科ともに平均ないし、平均をやや下回る程度の結果となりました。一方、中学校については、ほぼ全国平均から全国平均を上回る結果となりました。

また、2ページ目～3ページ目には、学年別の結果、4ページ目には、教科別の結果を載せております。上の方に記載しておりますとおり、1年生、2年生、5年生、6年生にやや課題があり、教科でいうと算数に課題があることがわかります。5ページ目の折れ線グラフは、同一学年の経年比較をグラフで表したものとなります。

6ページ目は、同一集団の経年変化を比較し、グラフで表しておりますが、一部の学年でやや低下した教科が認められるものの、おおむね横ばいないし、緩やかに伸びていること、また、中学校に入って伸びていることがわかります。

資料には載せておりませんが、本調査が設定する目標値に対しては、概ね同程度ないし、目標値以上という結果となっております。ただし、小学校算数科における課題が見られました。各校には詳細なデータが届いており、そのデータを基に3学期の授業改善、それから次年度に向けて学力学習の改善プランを設定してもらうこととしております。

続きまして、報告第3号「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」についてでございます。資料につきましては、別冊でお配りした通りです。

今年度各校にて実施した全国体力・運動能力、運動習慣等調査について結果が届きましたので、概要を報告させていただきます。

本調査は、学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育、健康等に関する指導などの改善に役立てることを目的とし、毎年小学5年生と中学2年生を対象に実施されております。

1ページ目は、小学校5年生の結果の概要となっております。今年度は、体力合計点においては、小学校は5年男子が全国平均を上回り、女子が全国平均程度の結果となっております。

項目別では、男女ともに敏捷性、持久力、走力に係る項目で、課題がみられました。また、男女ともに、合計点では上位層、下位層の割合が高く、上位下位の差が大きいことがわかりました。

2ページ目は、中学校2年生の結果の概要となっております。中学校は、男女ともに全国平均を下回る結果となりました。項目別では、筋力、筋持久力以外は、全国平均を下回り、特に小学校同様、敏捷性、持久力、走力に係る項目で課題が見られました。また、男女ともに、下位層の割合が全国と比べて高くなっております。

3ページ目を見ていただきますと、中学校2年生の結果と、同一集団の小学5年生当時の結果を比較しております。一部の種目を除き、3年間で全国との差が開いていることがわかります。

4ページ目、5ページ目に関しましては、学校別の合計点の推移です。調査対象人数の多少がございますので、人数の少ないところは結果の変化に大きな差がございますが、参考にしていただければと思います。

6ページ目、7ページ目は、調査対象児童生徒の体格に関する数値の集計表となっております。この数値を見ますと、伊達市のお子さんは全国に比べて、やや肥満型のお子さん

が多いことが分かります。

8ページ目は、伊達市全体の結果の概要、分析、考察をまとめたものとなります。各校には詳細なデータが届いており、そのデータを基に授業改善を含めた体力向上の取組を行うこととしております。

説明は以上です。

◎菊谷市長

ただいま説明がありましたが、報告第1号についてご質問、ご意見はございませんか。

◎早瀬委員

先日、胆振の教育委員研修会に出席した時に、洞爺湖町の親御さんが子どもを伊達の高校に行かせるか札幌の高校に行かせるか悩んでいるとの話を聞き、やはりたくさんの情報が欲しいというのと、特進クラスの設置やレベルについて気にしているとのことでした。スタートダッシュが大事だと考えますので、的確な情報発信が必要と考えております。

◎菊谷市長

委員のおっしゃるように、序列化されてから手を打っても遅いので、例えば海外研修制度や国立大学に進学した場合の補助など、早く打ち出していった方が良いと考えます。

◎影山教育長

今、学校が具体の教育活動を作っていますので、連携を取るとともに、市の財政の関係もありますが、可能なかぎり新しい学校が伊達市と西胆振の子どもたち、保護者にとって行きたい、行かせたいと思えるような魅力を下支えするような取組は絶対必要と考えています。市として具体的に学校側と詰めていく必要があると思っておりますし、早急にやりたいと考えております。

◎菊谷市長

教育委員会である程度方向性を出し、議会と協議しながら方向付けできれば合意は得られると考えているので、学校側と話してこういう事をしたいというのを早い段階で示してほしい。

◎影山教育長

具体的に開校時の生徒募集の事を考えると、5月がリミットと考えているので、連休明けには校長先生が回れるようにと考えています。

◎菊谷市長

田舎の高校に行くほど、指導者や塾を含め大学受験に不利になっていくと考えますがどうでしょうか。

◎菊地委員

特色ある学校という言葉はよくありますが、どのような特色というのを今の状況を踏まえると、グローバルな教育というところの海外との交流など確実な土台があると、スポーツで海外に行った人は技術はもとより現地にいることで語学力も付くという2重3重の良さ、さらには海外から自分の国を見る自分を見るという良さもあるので、やはりここをすごく打ち出してほしいというのは思います。

◎岩本委員

進学の際の選択肢として部活もあると思います。今、伊達高校は部活も合同になったり指導体制が弱くなっています。伊達は元々サッカーが強いのですが、新しい高校を立ち上げる時に部活にこれだけコーチがいる、合同でやっていたものを単体でやるなどが見えていません。部活も魅力のひとつと考えますので、そこを打ち出すのもひとつと考えます。

◎菊谷市長

指導者によって、子どもは大きく変わります。高校が新しくなるにあたって、どのスポーツを選ぶかというのがありますし、文化でも良いと考えますが、超一流を目指すという部活は何かというのを検討してもらって、どのようにするかということも含め、それについては高校の前から始まると考えますので、小学校くらいから一貫したスポーツに関しての教育、そういう流れも必要と考えます。教育委員会、体育協会など市全体で支えていく仕組みも必要と考えますし、マチぐるみでやるスポーツなど、高校だけではなくマチ全体でつながるものを考えられればと思います。

また、今の現状を見ますと、高校生の時に何か簡単でいいので商売みたいなものをやらせて、マネージメント能力というものや人を使うことはどういうものかということを経験させてあげればと考えます。社会人になった時に、経営者になった時にこうやろうと思って働くのか、時間をつぶすように働くのかの差というのは学校以上に大きな差になってくるので、そういう教育もあると思っています。

◎柴田校長

先程ご説明させていただいた中のキャリア教育の充実にありますますが、6次産業などそういうものの経験を高校の時から学校が設定できる科目の中で経験させたい、そのためのいろんな企業との連携がコンソーシアムということで考えております。

また、スポーツや文化については、新聞報道でもなされたところですが、昨年弓道と軽音楽で全道一になっています。3間口の学校で全道一が2つ出ている学校はあまりありません、ただその頑張り等が周知できていないというのがありますので、そういった部分も含め盛んにしていきたいと考えております。5月くらいには各中学校に細かく回り、これができる学校ですというのをアピールしていきたいと思っております。

◎菊谷市長

他にご質問、ご意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎菊谷市長

それでは、会議の中で出た部分については教育長に検討していただくこととし、報告第1号につきましては、報告として取扱いたいと思っております。次に、報告第2号、報告第3号についてご意見ございませんか。

◎菊地委員

胆振教育委員研修会の中で話が出たのですが、胆振の子どもたちはタブレットやスマートフォンを使ったりゲームをする時間がとても長い、そしてその事が学力や体力にも影響しているという話でした。これからの学習環境の中にタブレット等が入ってくるということですが、すごい速さで先生の働き方改革と合わせながら、効率的なものを求められているということに目からウロコという感じでした。そういう状況の中で、学校の学習等でタブレットをどんどん使うことで、逆に子どもたちはゲームしたくなくなるのではないかと考えています。

◎菊谷市長

子どもたちが小さい頃から外遊びをしたことがないから、外遊びの仕方、楽しさを分からないということもあると思います。

◎菊地委員

研修会の最後の話で、時間があつたらどんな事をして遊びたいかの問いに、みんなで友

達と家族とメディア以上の面白い事があつたらしたいというのがありました。外で遊ぶ楽しさ等が無かった子どもたちはかわいそうだなという思いと、ひとりで遊ぶ事が嫌だというのが表れていると思いました。

◎岩本委員

体力テストの結果で、肥満が北海道に多いというのが俊敏性に影響していると思いました。東京の子どもたちもゲーム等していると思いますが、東京の子どもたちの方が痩せている。ゲームだけが原因ではなくて、小学校自体の人が少なく、運動会でも競争にならないというのがあります。そういう意味では小学校の適正化というのにも必要になってきますし、スポーツ自体を盛り上げていかなければなりません、人数が少ないとスポーツもできません。

◎菊谷市長

ある時から北海道は変わってしまった気がします。分かりやすい例として力士がいますが、あれ程北海道から横綱が出ているのに、そもそも力士になる人がいなくなって肥満が増えてしまった。また、北海道の人は本州の人と比べてチャレンジしないし、引きこもっている印象があります。

◎早瀬委員

小学校から中学校に上がると、学力が少し上がり、体力が下がる。子どもたちは楽しいことが好きですが、一緒に遊んでくれる人が周りにいなくてひとりの状況になると、どうしても居場所としてスマートフォンになってしまう。子どもは今も昔もそんなに変わっていないと思いますし、スポーツ少年団等に入っている子どももいますが、所属に関わらずいろんな人が参加できるような機会があればと思います。

◎菊谷市長

昔はいたのですが、今は暇な時間がある大人がいません。先日、新人職員と話した時に感じたのですが、特殊な才能を活かして公益のために行う市職員の副業を土日限定で認めてはどうかと考えています。若い人が中々いないので、子どもたちの教育のために特殊な才能、技術を活かし、場所については統合校舎を利用するなどして運営をしてもらうようなことを考えてもいいのではと思っています。

◎影山教育長

地方には人がいないですし、一人ひとりの力を都会より大きくしていかなければならないので、今のような仕組みができれば力が発揮できる場所ができて、いろいろな人がウィンウィンの関係になれるのではないのでしょうか。

◎菊谷市長

アウトドアのインストラクターの話もよく聞きますし、特殊な才能を持った人が田舎で働きたいとなるかもしれないので、市職員として働き、個客を持ったら独立するという形があっても良いと思います。教育部参与どうですか。

◎櫻井教育部参与

学習やスポーツができる子というのは、ほっといても自分でやっていくので問題ないと考えています。問題は、伊達市の子どもで言うと、体力テストでDとかEのお子さんであり、そのお子さんの体力を上げることに重点を置くのではなく、どういうことに興味を持っているかというのを分析して、ドローンやeスポーツ、アウトドア体験をさせることが大事になってくるのではないかと思います。ただし、流行してから始めても遅いので、いち早く取り入れ学校で行っていくことや、高校でもドローンの授業等をやることでそうい



う子も救われていくので、先を見てやっていくことも必要と考えています。また、胆振西部の60人～70人の室蘭栄高校に行こうと考えているお子さんをどれだけ食い止めるか、そこに新しい学校が係ってくるのではないかと思います。

◎菊谷市長

他にご質問、ご意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎菊谷市長

それでは、報告第2号及び報告第3号につきましては、報告として取扱いたいと思いません。

以上で、本日の日程はすべて終了いたします。

◎高田企画課長

これもちまして、第8回伊達市総合教育会議を閉会いたします。

閉 会 （16時20分）